

ドクターNAKAMURAの 健康道場



Vol.67 人間が持って 生まれた運命

「私にはよく分かりません。」

健康道場の縁側に腰を掛けた姫が
兄弟子の御手洗 透に語りかける。

「何がじゃ？」

「さっきの無想空間、御手洗さん
も聞いていたでしょ。」

「古川と和尚のバトルかいな。」

「私にはバトルと言うより和尚が
古川さんにちょっかいを出している
としか思えなかったけど。」

「何を言うとなや。お前は。あの
無想空間の意味が分からんようでは、
まだまだ未熟やなお前は。」

「は？、じゃ～、御手洗さんはす
べからく分かるというんですか？」

「当たり前やがな。」

「きた～。当たり前田のクラッカ
ーでしょ！」

「何で先言うんや。おいしいとこ
どりやなお前は？」

「いやいや御手洗ハンばかりにお
いしい処はとらせません。」

「何漫才しとんですか。」

相変わらずクールな山部が加わる。

「姫は無想空間の意味が分からん
かったん？」

「山部さんまで何を言うんです
か。」

「未熟。」

「え～、マジですか～。」

「和尚は決して古川を攻めたので
はない。ただ単に辛辣なまでに現実
を言葉に変換したまでの事じゃ。」

「は～」

「人間はいつかは死ぬ。死なねば
ならぬ。死という事を裏返せば如何
に生きるかという事に帰依する。生
を充実させるも無駄にするも已次第。
これは精神論のみならず肉体論にも
当てはまる。人間には持って生まれ
たキャパシティーというものがある。
すなわち遺伝的なハンディキャップ
もアドバンテージも持って生まれた
運命。アドバンテージがあればタバ
コを吸おうが、たらふく食いつぶそ
うが何の問題もないが、ハンディキ
ャップがあればそうはいかぬ。己の
限度を知り、分を弁えよ。ってとこ
かな。和尚の言う事を翻訳すると。」
御手洗が経を唱えるがごとく答え
た。

そよかぜ 循環器内科・糖尿病内科
(県立中央病院 前)

院長 中村陽一